# 編集委員会便り

昨年12月に気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）が開催され，我国も温室効果ガス排出量を1990年当時から6％削減する事で合意しております．

省エネルギー便覧を見ると，第一次石油ショック以後のエネルギー消費の推移は，95年実績で産業部門が1倍と横這いなのに対し，民生，運輸部門では，それぞれ2倍弱，2倍の大幅な増加となっています．

我が家でも石油ショック時点ではエアコンはなく，マイカーの排気量は1300CCでした．現在ではエアコン3台，マイカーは2000CCと50CCのバイクになりました．冷蔵庫，テレビも大きくなっています．

今回の特集は，エネルギー消費伸び率が高い民生，運輸部門に焦点を当て，品物を製造する側とそれを使う側の双方から，それぞれの専門家に省エネルギーの方向を書いて頂くことに致しました．

特に読者の皆様には，この特集を参考に1日1善ならぬ1日1省エネルギーを心がけて頂けたら幸いです．

私は前任の雑賀氏を引継ぎ，編集実行委員会に参画しておりましたが，編集実行委員長から「省エネルギーはエネルギー産業の者がやったらどうか」と言うことで大阪ガスの有元氏と私が本特集を担当することになってしまいました．初めての事なので，執筆を依頼するにしても，付合いの狭い私にはどの方が良いのやら悩んでいたところ，編集実行委員長をはじめ，吉田邦夫先生，中村泰人先生のアドバイスを頂き，執筆者の方とコンタクト出来ました．

執筆者の方も見ず知らずの私からの依頼を快く引受けて頂き，また，ゴールデンウィークに原稿を書かなければならない心境を察すると本当に申し訳なく，紙面を借り厚く御礼申上げます．

尚，従来より若松貴英先生（名城大学教授，前編集実行委員会副委員長）にお世話頂いておりましたシリーズ特集「明日を支える資源」は，今回より西山孝先生（京都大学）が引き継がれ〝新シルクロード〟のシリーズを下記5～6回にわたり連載する予定となりましたのでお知らせ致します．ソ連崩壊後の中央アジアの資源を巡る新しい動きとして，国際的なコンソーシアムでこの地域の資源を開発し，欧州，アジアにまで送る大計画が検討されているようです．①ニューフロンティア中央アジアの鉱物・エネルギー資源，②カザフスタンの鉱物・エネルギー資源，③新彊・ウイグル自治区の鉱物・エネルギー資源，④カザフスタン，ウズベキスタンのエネルギー資源開発，⑤モンゴル共和国の鉱物・エネルギー資源，⑥キルギスの鉱物・エネルギー資源と資源研究センター構想，以上が予定となっております．

どうぞご期待下さい．

小清水　　保
（関西電力㈱研究開発室　調査役）